

三鷹市における災害に強い人づくり、 災害に強い地域づくり

東京都三鷹市総務部防災課

三鷹市の防災施策について

三鷹市は、都心から西へ約18kmと東京都のほぼ中央部、武蔵野台地に位置し面積は16.42km²、人口は182,770人(平成27年8月現在)の緑と水の豊かな公園都市です。

三鷹市では、首都直下地震の切迫性が高まる中で、「自分の命は自分で守る。自分たちのまちは自分たちで守る。」という自助と共助の理念に基づき、人の絆、地域の絆を強めることで地域防災力の向上を図り、市民と地域とともに「安全安心のまちづくり」を推進しています。

今回は、これまでに三鷹市が実施した防災施策のいくつかをご紹介します。

地域の防災リーダーとして活躍 ～三鷹市消防団～

現在の三鷹市消防団は、団長と副団長3名からなる本団4名と団員各20名からなる10個分団の計204名で構成されていて、平均年齢は38.3歳、平成27年8月1日現在、欠員はゼロです。「規律厳正にして士気旺盛」をモットーに火災や風水害などでの出場はもちろんですが、地域の防災リーダーとしての活動も積極的に行っています。

例年行っている「はたらく消防の写生会」では、消防署と連携して市内の小学校全15校にそれぞれの地区を担当している分団が消防ポンプ自動車で出場し、防火



消防団員による学校での講話の様子



学校での写生会の様子

衣を身にまとい小学生の写生モデルとなっています。

また、小中学校から依頼を受け、児童・生徒への防災教育の一環として授業にも参加しています。小学校では、「地域で活躍する消防団」という内容で講話を行い、児童たちも興味津々で、毎年、たくさんの質問が団員に寄せられ大好評です。

中学校では、「震災時の行動について」という講話と、生徒たちによる避難所設営への協力の一つとして災害用トイレの組立訓練の指導も行いました。授業を担



地域での防災訓練の様子



ワークショップの様子

当した団員は、教壇での講話に少し緊張しつつも、地域のつながりや自助と共助の大切さについて話をするとともに、消防団活動の紹介なども行っています。

さらに、市内7つのコミュニティ住区ごとに会場を設け実施する総合防災訓練では、消防団員も各担当地区の訓練に参加し、一般の市民の参加者に消火器を使った初期消火体験訓練の指導や、AEDを用いた救命の指導、中学生に担架搬送の指導を行うなど、地域の防災リーダーとして地域と密着した活動をしています。

町会等が未組織の地域における防災ネットワークづくり

地域の自主防災組織の構成員の多くは町会や自治会の皆さんです。三鷹市の場合7つのコミュニティ住区ごとに自主防災組織を編成しており、町会等は自主防災組織の土台となる重要な役割を担っています。

しかし、市内には、町会等が未組織の地域があり、そのような地域において自主的な防災活動を行うための体制づくりは長年の課題でもありました。

そのような状況の中、平成25年度に町

会等が未組織の地域におけるコミュニティの創生と防災拠点の整備を目的として、東京都から無償で借り受けた土地に「下連雀六丁目防災広場」を整備することとなり、整備に向けた地域住民と市との



かまどベンチを使用した炊き出し訓練



地下収納トイレの組立訓練

協働によるワークショップを実施しました。その中で住民の皆さんが知恵を出しあい、かまどベンチ、ソーラー照明、防災パーゴラ、地下収納トイレ、コミュニティ花壇、防災倉庫等の整備プランが市に提案され、広場の整備が実現しました。その後、ワークショップのメンバーが中心となり、地域の防災を考える「地区連絡会」が発足し、広場のオープニングイベントの検討とともに、「防災まち歩き」と称して防災の視点を持って地域を再認識する取組や地域住民に防災広場の意義を周知するためにオリジナルの広報誌の作成等も行いました。

そして、このような町会等が未組織の地域における防災ネットワークづくりの取組は、東京都の「地域防災力向上モデル地区事業」として認定されました。

現在でもこの地区連絡会は、地域内に災害時の共助のためのゆるやかなつながりを形成し、地域住民相互の交流イベントや防災広場を活用した炊き出し訓練や消火訓練、地域住民の防災意識を高めるための防災セミナーの開催など精力的に防災ネットワークづくりを進めています。

この地域で防災を核とした関係づくり

に一定の成果を上げることができたことから、今後は市内の町会等が未組織である他の地域でもこうした取組が広がるように取り組んでいきたいと考えています。

オヤジの会の取組

災害は、時や場所を選ばずに、ある日突然「日常」の中で発生する「非日常」の出来事です。そのため、三鷹市では日常的に防災以外の活動をしている団体においても、日常の活動に防災の視点を取り入れたイベントや講座の実施を推進しています。

その中で先進的な取組を続けている「オヤジの会」についてご紹介します。三鷹市では、ほとんどの小学校に児童の父親有志によるオヤジの会が結成されており、特に三鷹市立第五小学校のオヤジの会はその先駆けとして、平成15年から自主的に活動を続けています。

餅つき大会や卒業生を送る会のイベントなど、年間を通じて子どもたちが学校生活をより楽しく過ごし、さらに学校生活では経験できないことをオヤジたちが伝えるというモットーで活動しています。



キャンプ前の防災ゲームの様子



オヤジたちの炊き出しの様子



キャンプでの放水体験

その中で、夏休みを利用して親子が学校に宿泊する「防災キャンプ」は、始めてから12年、毎年実施している大人気の事業です。

この防災キャンプでは、災害時の学校を想定し、学校の体育館や校庭に張ったテントに子どもたちを宿泊させ、防災訓練や野外炊事などを行う活動ですが、「楽しく防災」をテーマに、毎年趣向を凝らした内容をオヤジたちが中心となり企画・実施しており、自由参加であるにもかかわらず今では全校生徒の9割以上と、100人以上の父親が参加するほどになっています。

普段から慣れ親しんでいる校舎で、顔見知りの友達やオヤジたちと一緒に非日常的な学校宿泊体験を行うことで、子どもたちは災害時への対応力を着実に身に付けており、東日本大震災の時にも、子どもたちは「防災キャンプみたいだね」と、とても落ち着いた行動をとることができました。

さらに、この取組はオヤジたち自身の防災力強化にもつながっており、イベントを通して大人数の炊き出しやテントの設営を行うことで、防災資機材の活用能

力向上が図られています。また、子どものことだけでなく、「自分たちのまちは自分たちで守る」という共助の精神がオヤジに代々引き継がれており、東日本大震災の際には、日中の発災にもかかわらず、近隣のオヤジたちがいち早く学校に駆け付け、炊き出しや宿泊に備えた準備などを手際よく行い、防災キャンプで培ったノウハウを大いに発揮しました。

このようなオヤジの会の取組は、平常時から地域の中の若い世代同士のネットワークを築くとともに、子どもたちとオヤジたち一人ひとりの防災力向上につながり、地域全体の共助の防災力強化に大いに貢献しています。

結 び に

大地震や風水害などの災害から市民の生命・身体及び財産を守り、生活基盤を確保していくためには、市民、地域、市が、それぞれの役割を果たすことができるよう防災力を高めるとともに、自助、共助、公助が相互に連携して防災対策に取り組むことが何よりも重要です。

東日本大震災の発生以降、市民と地域の防災意識が高まっている中、地域防災力をより一層向上させるためにも、これまで以上に地域を中心とした防災施策に取り組み、人の絆、地域の絆を大切に育み、つなげていきたいと考えています。

